清流

題字：芳野 充

平成29年6月30日
第6号

発行所　加来不動産㈱
発行者　加来　寛
北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに
静かに
清流のように

外見も内面も清潔にととのえる

人への思いやりの具体的行動のなかで『清潔でさわやかな身だしなみ』という項目があります。「いくら笑顔や言葉づかいがよくても、服装や髪の毛がその場にふさわしくなく不潔な感じであれば、相手にさわやかな感じを与えず、不快さを残してしまいます（著書「素心学要論」より）」とあるように、自分自身の外見が相手の印象を左右します。

さいきん読んだある本のなかにもこのような一節がありました。『装いというのは、人への究極の気遣い。自分のために装うのではなく、相手のために装わなければいけない（著書「ビジネスという勝負の場は一瞬、しかも服で決まる」より）』。これを読み反省させられました。それはいままでビジネスシーンなどでも身だしなみに対してそこまで気にしていなかったからです。

しかしよくよく考えると、仕事でもプライベートでもとくに知らない人と対面するときには、相手の表情などはもちろんですが、どことなく身だしなみに清潔感があり、さわやかに感じる人と、何となくだらしなく感じる人とどちらに話しかけたいかを考えると、わたしの場合は圧倒的に前者です。他人のことに関してはこのように見ているのですが、いざ自分のこととなるとどうも意識がうすかったようです。

またわたしも四十という歳をむかえたせいなのか、相手の雰囲気というものもとても意識します。たとえば、相手の身だしなみはいたってシンプルなのですが、着こなしのセンスというものを度外視しても、そのたたずまいがすでに清潔感があり、さわやかに感じる方が稀にいらっしゃいます。そのような方と話す機会があれば積極的に話しかけるのですが、得てして共通しているなと感じることは、前向きで志がたかく思いやりがある方が多いようです。

『清潔』という言葉をしらべてみると『人柄や行いが清らかで、うそやごまかしなどがないこと。また、そのさま。』との意味もあるようです。『清潔でさわやかな見だしなみ』とは、相手に不快さをあたえないという内面からでる心持ちも外見にあらわれ、それが清潔感やさわやかさにもつながり、結果的に安心感や信頼感をあたえることになる気がしました。今後、身だしなみで相手に不快さをあたえないようにしようという内面にも目をむけ、自身を磨いていきたいと思います。

加来　寛